

ISO/TC 127 (土工機械) 国際作業グループ 2012年6月ドイツ会議報告

ISO/TC 127/SC 2/WG 16 - ISO 13766 (電磁両立性) ベルリン国際会議

2012年6月に、国際標準化機構ISOのTC 127土工機械専門委員会の傘下の主として電子技術に関連した国際作業グループの会議がドイツ国ベルリン市のVDMA (ドイツ機械工業連盟) で開催され、協会標準部会ISO/TC 127土工機械委員会から国際専門家(Expert)として出席の砂村氏他の報告を紹介する。

ISO/TC 127/SC 2/WG 16ベルリン国際会議出席報告

1 会議名 : ISO/TC 127/SC 2/WG 16-ISO 13766 (電磁両立性)

2 開催地 : ドイツ国ベルリン市のVDMA (ドイツ機械工業連盟) 会議室

3 開催日 : 平成24年6月20日

4 出席者 : チェコ1名 : Karas, Michal, Mr, (チェコ Bobcat/斗山)、フランス2名 : Mazet, Paul, Mr, (CETIM フランス機械技術中央研究所)、Knecht, Frederic, Mr(Liebherr France)、ドイツ7名 : Busenbender, Achim, Mr (Wirtgen)、Drees, Ulrich, Mr (BOMAG)、Kampmeier, René, Dipl.-Ing (VDMA ドイツ機械工業連盟)、Kellerbauer, Holger, Dr (EMC Test NRW)、Knoflerl, Michael, Mr (Bauer Maschinen)、Petzold, Wolf-Michael, Dipl.-Ing (Putzmaister)、Grommes, Werner, Mr, (IFA ドイツ法的損害保険の労働安全研究機関)、スウェーデン2名 : Gäfvert, Joakim, Mr (Volvo)、Karlsson Christian Mr (Dynapac)、日本2名 : 吉田 克美 氏 (コマツ)、砂村 和弘 氏 (日立建機)、米国6名 : Elliott, Mark, L, Mr, Lueschow, Kevin, J, Mr (Caterpillar)、Weires, Rick, Mr、West, Orrin, Mr (Deere)、Welles, Gerry, Mr [Charles Machine Works (DitchWitch)]、Neva, Steve, Mr (Bobcat/斗山)、英国1名 : Burrows, Alan, Mr (JCB) 計21名

● ISO/TC 127/SC 2/WG 16 コンビナー (主査) 兼 ISO 13766 改正プロジェクトリーダー(PL) : 5.1 参照

経緯 : 電磁両立性 (機械の電子系の外部電磁環境に対する耐性=イミュニティ、及び、外部電磁環境への不要な電磁妨害波の発生=エミッション、の双方を不具合のないレベルに規制する) に関する ISO 13766 と CEN 規格 EN 13309 の整合を図るため、SC 2/WG 16 で検討しているが、ISO 13766 を二分して EN 13309 に基づく基準を ISO 13766-1 とし、機能安全に関する要求基準を ISO 13766-2 とする方向となっている。

5 会議結果概要 :

5.1 はじめに、コンビナー兼プロジェクトリーダーの Klimars, Wolfram, Mr (AVL Trimerics社) がこれなくなってしまったので、暫定的に Drees, Ulrich, Mr がコンビナーを務める旨、WG 幹事の Kampmier, Rene, Mr から挨拶。

5.2 前回回覧したアンケート (下記) での結果が Kampmier, Rene, Mr から報告。チェコの回答が砂村には納得だった。いわく「"Exceed"の意味がわかりにくく、アンケートの真意がわからない。」

アンケート要旨 : ISO 13766-2 のイミュニティレベル 100 V/m は "Maintain" (通常よりも厳しいレベルでの (選択的) 要求) か? 又は "Exceed" (一般にも厳しい要求をする) か?、"Exceed" との回答の場合、a) 100 V/m とした厳しいイミュニティレベルでは安全停止も許容するか? 又は b) 正常機能を要求するか?

5.3 Kellerbauer, Holger, Dr から : 「第1部で 30 V/m までは正常な動作をしなければならない。第2部では 100 V/m までは、正常な動作または安全停止をしなければならない。」というドイツの基本方針がのべられた。

5.4 日程が6ヶ月以上遅れていることに関してKampmierから説明あり、結局ISOのTMB（技術管理評議会）権限による自動キャンセルを避けるために委員会側から自主キャンセルをして、速やかに再スタートすることとした。NWIPは来年早々に可決されるから次のWGはその後。日程は別途TC 1 27議長のRoley, Dan, Drと相談。（来年4月にBiberachが1候補）

5.5 安全停止の妥当性にかんして、附属書を追加する。

6 次回会合予定： 次回は2013年4月17日の週にドイツ国BiberachのLiebherr社施設にて。

以上